



なか ともひろ  
インテック システムズ バンコク社長 中 智弘

1990年インテック入社、2008年インテック上海総経理、2011年海外事業部ASEANチームリーダー。米国、香港、上海で営業・マネジメントに携わるなど、海外拠点での業務経験が豊富。

## 沸き立つバンコク

サワーデーイカップ(タイ語で「こんにちは」)。インテック システムズ バンコク(ISB)の中智弘です。ISBは昨年2月に設立し、日系企業向けITサービスを行っています。また、バンコク在住の日本人による日本向けコールセンターなど各種のBPOサービスを提供し、お客さまのコスト削減やバイリンガル対応のご要望に応じています。また、インテックのASEAN地域での調査拠点としての役割も担っています。

今号から、タイを中心としたASEANの現地事情をお伝えしてまいります。

### 急増する日系企業駐在員

バンコクでは昨年から、日本人出張者が急増しています。年末年始の日本便は11月にはほぼ完売していたと聞きました。

バンコクから車で2時間余りの地区に、日本の自動車関連企業も多く進出する工業団地があります。バンコクから通勤するには時間がかかるため、駐在員の多くはシラチャという工業団地近くの町に住んでいます。その数は5千人とも言われ、

日本人学校もあり、さらに日本人向け歓楽街も形成されています。

そのシラチャでも昨年から出張者、駐在員が増え、中長期滞在用のホテルやマンションの空きがなくなり、車で30分のリゾート地パタヤから通うという状況になっています。日本人の就労ビザの取得も以前の倍以上の時間がかかっており、日系企業のタイ進出が加速していることが実感できます。

### タンブン精神と交通渋滞

タイの失業率は1%を切り、昨年の自動車生産台数も過去最高の240万台を超え、自動車バブルに沸いています。当然渋滞も多くなり、バンコクは米国の旅行雑誌から世界第4位の渋滞都市と、ありがたくないお墨付きまでももらいました。バンコク都知事によると、バンコクの全道路を対象とした交通許容量は160万台。一方、四輪車の登録は累計で450万台近くあり、許容量の実に2.8倍の車が走っている計算になります。車の量からして渋滞は必然ですが、実際に車で走るとそれだけが原因というわけでもなさ

そうです。

まず、信号は長いときは5分以上変わりません。信号の切り替えは各交差点にある小さな建物の中で警察官が車の流れを見ながら手動で行っているのです。不可解な信号の変わり方に、「なぜITS(高度道路交通システム)を導入しないのか」と思い聞いてみました。実は数年前に検討されたものの、警察官から「仕事がなくならないか」との反発があり、当時の政権が導入を見送ったという事情がありました。

個人的には、タイ人ドライバーの譲り合いも渋滞の原因ではと考えています。これは、現世で徳を積むと来世は幸せになれるという仏教の教え「タンブン」を人々が大切に行っていることによるのかもしれない。

ISBの開所式でもお坊さんをお招きしてお布施をしました。さまざまな場面で仏教がタイの人々に深く根付いていることがわかります。



ISBの開所式で